

授業科目	* 対人関係論				単位	1		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11113J		
開講年次	1年	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1			
担当教員	岡田 健一							
授業概要	<p>看護の現場において、疾病の知識や看護の技術に加え、対人関係を良好に保つ能力が必要なのは、言うまでもない。本授業では、対人関係の基本は、自己理解と自分自身の感情との上手な付き合い方であると考え、「人付き合い」と「自分付き合い」についての学びを深めていく。</p> <p>授業の進め方としては、講義に加え、身近な題材・実感を持ちやすい題材を使ったワークを多用し、知的な理解にとどまらない体験的な理解を目指す。また、毎回の授業終了時に書いてもらうミニレポートの内容を、次の授業で取り上げることで、お互いの相互理解や、学びの深まりを大切にする。</p> <p>学生の興味関心を活かして学びを深めるため、毎回のミニレポートの内容により、授業計画は適宜変更する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の特徴を理解し、受け止めることができる。 ・自分の感情と上手に付き合うことができる。 ・他者理解を深め、良好な対人関係を築くスキルを身につける。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	0	0	50	100	
知識・理解 (DP1-1)			15			25	40	
知識・理解 (DP1-2)			15			25	40	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			20				20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の肯定的な部分だけでなく、否定的な部分についても、自己理解、自己受容ができる。 ・怒りの感情など、自分の中の強い感情についても、適切に付き合い合う事ができ、振り回されない。 ・「自他の境界線」を理解し、「私メッセージ」と「自他を尊重するコミュニケーション」を実践できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中に様々な自分、与えられた状況で頑張っている自分がいる事に気付ける。 ・怒りの感情など、自分の中の強い感情に振り回される事があっても、事後にはそのことに気付き、怒りをぶつけた相手とその事を話せる。 ・「自他の境界線」を理解し、「私メッセージ」と「自他を尊重するコミュニケーション」を理解し、余裕のある時には試してみる事が出来る。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復	

				習時間 (分)
1	概論 授業の目的や取り決め 対人関係を学ぶ意味	講義+GW	これまで自分がどんな人間関係を築いてきたか、思い出しておく	随時
2	「感じ」に開かれる1 言葉以前のからだの感じを知る	講義+GW	生活の中で、どんなからだの感じが生じているか、注意を向ける	随時
3	「感じ」に開かれる2 言葉以前のからだの感じを知る	講義+GW	生活の中で、どんなからだの感じが生じているか、注意を向ける	随時
4	気持ちとの距離1 「感じや気持ちとの距離」を学ぶ	講義+GW	生活の中で、感じや気持ちとの距離がどうなっているか、注意を向ける	随時
5	気持ちとの距離2 「感じや気持ちとの距離」を学ぶ	講義+GW	生活の中で、感じや気持ちとの距離がどうなっているか、注意を向ける	随時
6	自他の境界線1 「自分と他人の境界線」を学ぶ	講義+GW	生活の中で、自他の境界線がどうなっているか、注意を向ける	随時
7	自他の境界線2 「自分と他人の境界線」を学ぶ	講義+GW	生活の中で、自他の境界線がどうなっているか、注意を向ける	随時
8	自他の境界線3 「自分と他人の境界線」を学ぶ	講義+GW	生活の中で、自他の境界線がどうなっているか、注意を向ける	随時
9	怒りの感情を考える1 怒りの感情の特徴と取り扱い	講義+GW	生活の中で、強い感情をどう取り扱っているか、注意を向ける	随時
10	怒りの感情を考える2 怒りの感情の特徴と取り扱い	講義+GW	生活の中で、強い感情をどう取り扱っているか、注意を向ける	随時
11	コミュニケーションの基本1 相互理解を促すコミュニケーションを学ぶ	講義+GW	授業で習ったコミュニケーションスキルを、生活の中で使ってみる	随時
12	コミュニケーションの基本2 相互理解を促すコミュニケーションを学ぶ	講義+GW	授業で習ったコミュニケーションスキルを、生活の中で使ってみる	随時
13	コミュニケーションの基本3 相互理解を促すコミュニケーションを学ぶ	講義+GW	授業で習ったコミュニケーションスキルを、生活の中で使ってみる	随時

14	コミュニケーションの基本4 相互理解を促すコミュニケーションを学ぶ	講義+GW	授業で習ったコミュニケーションスキルを、生活の中で使ってみる	随時
15	まとめ	到達度の確認	対人関係論で学んだ事が、自分の生活をどう変化させたか、振り返る	随時
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	日常生活の中での自分の言動を振り返る時間を持つこと。 自分の気持ちや感じに注意を向けられること。			
テキスト	杉原保史(2015):プロカウンセラーの共感の技術. 創元社.			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業の進行に合わせ、適宜紹介する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	(学生へのメッセージ)対人関係のあり方は、看護に限らず、日常の様々な場面にも大きな影響を持っている。にもかかわらず、小・中・高の教育課程の中では、きっちりと扱われてきていない。本授業をきっかけに、「人付き合い」と「自分付き合い」についての学びが深まり、今後の皆さんの人生に役立てばと願っている。 (授業以外の学習)生活の中での様々な人間関係(家族、友人、バイト先、教職員など)を振り返り、自分が感じたことを自覚し、相手の気持ちを理解したり、より良い対人関係を気づくために何が必要かを常に考えることを求める。			

達成度評価に関するコメント	<p>達成度の評価は、1)教科書を読んだレポート(20%)、2)毎回の小レポート(30%)、3)到達度の確認(50%)で行う予定。</p> <p>なお、最終回に実施する「到達度の確認」の方法については、授業の中で学生と相談して決める。自らがこの授業で学び取ったものをどのように評価すればよいのか、学生が主体的に考えることを期待している。授業担当者としては、知識として頭だけで学ぶのではなく、自分の生活体験と照らし合わせながら、身体の実感や気持ちも含めた自分の全身で学んで欲しいと考えている。</p>
---------------	---